

平成 25 年度インターンシップ実施報告

— より多くの学生のためのキャリア教育を目指して —

The Internship Program in 2013:
Increasing Student Numbers in Career Education

奥村 哲*1, 花田佳彦*2, 郡武治*3, 齋藤明広*4
森隆比古*5, 友次克子*5, 青島偉夫*6, 吉國博昭*6

Tetsu OKUMURA, Yoshibiko HANADA, Takeharu KOHRI, Akihiro SAITO,
Takahiko MORI, Katsuko TOMOTSUGU, Hideo AOSHIMA, Hiroaki YOSHIKUNI

Abstract: Our Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2013. In 2013, 74 companies in Shizuoka prefecture were involved in this program by providing their own internship programs for 175 students and 105 students participated in the programs. The results of this program over ten years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から 10 年以上を経過し、企業との相互理解も深まってきている。また参加学生数も着実に増加している。このように、本授業は人材育成の手段として、確実に定着しつつあると言えよう。また、本学のキャリア教育の中で重要な地位を占める事業となってきた。

本報告は、平成 25 年夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果を昨年度までのデータと比較可能な形でまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得たか、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討している。さらに平成 11 年度から平成 25 年度までの 15 年間のインターンシップ実施結果を総括的にまとめ、来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。また、今年度 2 回目の取り組みとして平成 26 年春期に行われる春期インターンシップについても、その取り組みについて述べる。

2. 平成 25 年度インターンシップの計画

昨年度の申し送りとして、以下の点が挙げられていた。

- 本学のキャリア支援教育が学生に広まってきたことにより、インターンシップへの関心も高まり、さらに学生の応募数が増加することが見込まれる。このことから、従来の受入れ企業との関係を深めると共に、さらに新規受入れ企業の開拓が必須である。
- ② 実習生の態度や状況について、企業からの評価が低下傾向にあり、事前研修を通して基本的なビジネスマナーを身につけさせる必要性が年々高まっている。
- ③ 春期インターンシップのあり方についてより具体的

に検討する。

平成 25 年度インターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れた。

- 新規インターンシップ受入れ企業開拓に取り組んだ。
- ② 企業側への受入希望調査を昨年同様 4 月に開始した。
- ③ 企業からの全提出物を昨年同様 Web 上で入力できるようにし、インターンシップ受入れ申込み、実習報告、評価作業等の効率化によって企業の負担を軽減した。
- 学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、同時に挨拶や言葉遣いの指導も行った。
- ⑤ 昨年度に引き続き春期インターンシップを試行した。

上記施策により、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップ制度は地域産業との連携による、地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から重要な役割を負っている。協力依頼企業の選定にあたっては、過去 14 年間の受入依頼の発送状況や、これまでの就職状況などを十分に考慮し、以下の条件で依頼状送付企業の選定を行った。

- 昨年まで依頼状を送付したが返事の全くない企業、インターンシップ不可の返事をいただいた企業を削除。
- ② 平成 24 年度卒業生の就職先企業のうち、通勤可能な地域の企業を追加。
- ③ 春期インターンシップに関する企業アンケートにおいて、夏期インターンシップ受入れが可能と解答のあった企業、インターンシップに前向きな企業を追加。
- 求人ナビ登録企業の中で、インターンシップ受入れが可能で、通勤可能な地域の企業を追加。
- ⑤ 通勤可能な地域の市役所、図書館などを数件追加。

上記条件で選考の結果、インターンシップ受入れの可能性のない約 56 社(昨年度は 330 社)を削除、新たに 107 社(同 130 社)を追加し、4 月 19 日に、445 社(同 394 社)に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。その結果、平成 25 年度においては、74 社・175 名分(昨年度は 76 社 133 名分)の実習テーマ受入申し込みがあった。景気状況的には円高が続いていた昨年度よりは明るい兆しもみられるものの、消費税増税を平成 26 年 4 月に控え、また東日本大震災の影響も多方面に残っていた。そのこと

2014 年 3 月 7 日受理

*1 インターンシップ WG リーダー, *2 機械工学科, *3 電気電子工学科, *4 物質生命科学科, *5 総合情報学部, *6 キャリア支援課

もあり受入れ企業数は微減となったが、受入れ募集人数については昨年より約3割増加した。これは本学のインターンシップ制度への地元企業の理解が広まってきた事と、依頼企業の選択に関して、事務局職員の多大なる努力の成果であると言える。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

4月の履修ガイダンスなどを利用し、全学学生に対して事前研修およびインターンシップ実習への参加要請を行った。また、報告書の提出と報告会および事後研修全てに

参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ参加希望者には4月9日の第1回の事前研修をはじめとして、全3回の事前研修を実施した。参加希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」をもとに、学生が実習内容をよく検討した上で希望企業を選定し、第5希望までの受付を行った。希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行った。また、学生の通勤の可能性についても検討し、通勤が危うそうな学生については個別に確認を行

表1 実習先受入企業一覧表(受入回答企業74社、募集人数175名、実習実施企業56社、実習学生105名)

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
1	株式会社アーティス	浜松市中区	ウェブサイト制作に関する業務を理解する	9/2-13	10	1	1
2	株式会社アイクリエイティブ(草薙)	静岡市清水区	事務系業務, 学校運営に関する業務, 農業体験など	8/26-30	5	1	1
2	株式会社アイクリエイティブ(沼津)	沼津市	事務系業務, 学校運営に関する業務, 農業体験など	8/19-26	5	2	2
3	株式会社アイゼン(機械加工)	浜松市南区	求められる精度と高品質を工程ごとに実現する	9/2-13	12	1	1
3	株式会社アイゼン(設計)	浜松市南区	自動車部品製造機械・治具の設計から組立	9/2-13	12	1	1
4	アイティ・インターナショナル株式会社	静岡市葵区	コンテンツとITの実習	9/2-13	10	2	2
5	アイパルス株式会社	浜松市北区	表面実装機(チップマウンター)のサブユニット組立ての習得	9/2-12	9	1	0
6	株式会社赤堀技研	袋井市	製造と生産管理	8/19-9/6	15	2	2
7	株式会社アクティ森	森町	接客を通してサービス業を学ぶ	8/6-19	14	2	2
8	ASTI株式会社	浜松市南区	車載電装品, 又は制御機器の設計評価, 生産技術	9/6-19	10	1	1
9	天方産業株式会社(営業)	浜松市中区	マイコンを使用したソフト作成	9/2-13	10	1	0
9	天方産業株式会社(SE)	浜松市中区	サーバとネットワークについて	9/2-13	10	1	1
10	磐田信用金庫	磐田市	信用金庫の理解	8/5-9	5	3	3
11	株式会社ウィンウィンピーターパン するが工房	静岡市駿河区	顧客満足の創造	9/11-15	5	2	2
11	株式会社ウィンウィンピーターパン 小麦市場	焼津市	顧客満足の創造	9/11-15	5	2	1
12	株式会社エーピーアイコーポレーション袋井工場	袋井市	微生物を用いての発酵実験及び発酵液からの有用物精製実験	8/5-9	5	2	2
13	エズカ工業株式会社	磐田市	機械組立補助, 検査補助, 工具使用による作業	8/20-9/19	10	2	0
14	株式会社エヌエステー	浜松市	電子機器製作における基本的な作業や簡単な検査業務	9/2-13	10	1	1
15	NNP電子株式会社	磐田市	電子制御機器の試作品実験データ取り, 検査	9/2-13	10	1	1
16	株式会社エフ・シー・シー 竜洋工場	磐田市	熱処理検査, 出荷, NC旋盤など	9/4-17	10	3	3
17	社会福祉法人 遠州厚生園 特別養護老人ホーム遠州の園	磐田市	介護体験を通して高齢者福祉を学ぶ	9/2-13	10	2	1
18	遠州鉄道株式会社	浜松市中区	ビジネスマナー講座, 職場見学, 職場体験, グループワーク	9/3-9	5	1	1
19	株式会社オーミ	磐田市	ものづくりの基本となる金型作りを体験する。	9/2-17	12	2	2
20	株式会社小楠金属工業所	浜松市西区	精密機能部品の切削加工と生産技術	9/2-13	10	1	1

21	株式会社かきこや	浜松市 中区	明るく、元気な接客	9/4-18 9/2-14	10	2	2
22	掛川市役所 総務部 総務課	掛川市	市民サービス	8/5-9	5	1	1
23	川崎工業株式会社	菊川市	機械技術の習得	9/2-13	10	2	0
24	株式会社木村鋳造所	清水町	CAD から模型製作、鋳造・機械加工までターンキソリューションを体感する	9/3-13	10	10	0
25	株式会社コーリツ	磐田市	各種生産設備の保全業務を体験する	8/5-9	5	1	1
26	(医)光久会	浜松市 天竜区	高齢者のための生活援助を考える	8/5-9	5	2	1
27	コニカミノルタケミカル 株式会社	袋井市	測定機種によるバラツキの解析	9/2-13	10	1	1
28	佐藤農園	山梨県 山梨市	農業ビジネス(生産、販売、流通)の現場を体験する	9/3-15	5	5	4
29	株式会社ジーンズショ ップオサダ	浜松市 東区	アパレル業界における販売員の役割	8/10-24	10	2	0
30	株式会社汐見製作所	湖西市	CAD による設備・治具設計	9/2-13	10	2	0
31	静岡県サッカー協会 グループ エコパハウ ス	袋井市	運動公園のウラカタを見よう!	8/9-9/13	10	3	3
32	静岡ビルサービス株 式会社	袋井市	建物、維持管理	8/19-30	10	2	2
33	株式会社静鉄ストア	静岡市 葵区	接客・販売・荷出し等	8/25-9/19 9/2-6	5	2	2
34	シブヤ精機株式会社	浜松市 東区	農業用選果・選別システムの設計実習	9/2-13	10	2	0
35	島田市役所	島田市	市民サービス	8/6-13 9/9-19	5	2	2
36	社会福祉法人春風会 ぬくもりの里	伊豆の 国市	高齢者の介護	8/5-9/19	35	3	0
36	社会福祉法人春風会 あしたかホーム	沼津市	高齢者と触れ合う中で、福祉の一端を理解して今後の生活に役立てる	9/2-13	11	2	1
37	株式会社ショーワ浅羽 工場	袋井市	二輪用ショックアブソーバの開発業務	9/2-13	10	1	1
38	株式会社榛葉鉄工所	掛川市	マフラー製造工程の実習とエクセルを使った管理資料作成	8/5-9/30	10	2	0
39	鈴与システムテクノ ロジー株式会社	静岡市 清水区	オリエンテーション、会社概要説明、IT業界について、グループワーク(開発演習)等	9/9-13	5	1	1
40	社会福祉法人聖啓会 特別養護老人ホーム 菜の花	藤枝市	高齢者の尊厳を守るケアの提供	8/5-26	22	2	0
41	株式会社セイユー 富士芝川工場	芝川町	ものづくり～プラスチック容器が出来るまで～	8/5-9/13	30	2	0
42	ダイハツ沼津販売株 式会社	沼津市	お出迎えからお見送りまで店舗総合営業活動をとおして体験	7/20-9/15	10	3	0
43	高松電機株式会社	浜松市 東区	自動制御装置の組立、配線の実習、客先の生産工場を見学(自動制御装置の働き)	9/3-19	13	2	2
44	竹原産業株式会社 (整備)	袋井市	見学・補助	9/1-21	10	2	2
44	竹原産業株式会社 (プランナー・設計)	袋井市	家周りのレイアウト	9/1-11	10	2	2
45	株式会社田子重	焼津市	販売員・商品管理	8/8-23	10	3	3
46	茶夢茶夢ランド菅山園 (茶)	牧之原 市	お茶の栽培、荒茶製造	8/19-23	5	3	1
46	茶夢茶夢ランド菅山園 (イチゴ)	牧之原 市	苺の栽培実習	8/19-23	5	3	1
47	東名電機株式会社	富士市	配電盤・制御盤の組立	9/2-13	10	2	2
48	豊川信用金庫	愛知県 豊川市	研修センターでの講義及び営業店職場実習	8/12-16	5	3	2
49	ニチアス株式会社 袋 井工場	袋井市	生産技術開発及び、製造業務の補助	9/9-13	5	1	1

50	日星電気株式会社	浜松市 西区	モノづくり体験	8/26-9/6	10	1	0
51	法多山尊永寺	袋井市	気持ちのよい参拝を行っていただく為の「境内管理」	9/1-15	10	3	3
52	浜二ペイント株式会社	浜松市 北区	木工用塗料の検査及び塗装	9/2-6	5	1	0
53	浜松鉄工株式会社	磐田市	熱処理業務の理解と実作業～検査	9/2-13	10	2	1
54	浜松ファイナンシャル プランナーズ事務所 株式会社	浜松市 中区	ライフプランとキャッシュフロー表の作成	8/13-30	14	2	2
55	袋井市月見の里学遊 館	袋井市	文化施設での事業の企画・運営の体験	8/10-31	10	2	2
56	袋井市役所	袋井市	袋井市という地方自治体の公共サービスに係る事務	8/3-9/19	5-10	3	3
57	藤枝市役所	藤枝市	図書業務の習得	8/13-23	10	3	3
58	不二工機製造株式会 社	浜松市 中区	工程設計, 検査, 組立	9/9-13	5	1	0
59	富士市役所	富士市	市民サービス	8/19-30	10	2	0
60	株式会社富士セラミッ クス	富士宮 市	圧電セラミックスの製造や技術検討作業の実習	9/2-6	5	1	1
61	富士ゼロックス静岡株 式会社 浜松支店	浜松市 中区	顧客サービス	9/2-13	10	2	2
62	株式会社藤田鉄工所	掛川市	簡単な機械加工, 社員の補助作業, 出荷補助等	9/3-16	10	2	2
63	株式会社平成工業	静岡市 清水区	大手自動車メーカー生産方式の一端を学ぶ	9/2-11	8	2	2
64	ベルファーム株式会 社	菊川市	トマトの栽培・収穫および選果作業	8/3-20	8	15	1
65	株式会社ホンダカー ズ静岡西	浜松市 北区	お客様の期待を越える接客	9/3-16	10	5	3
66	株式会社マイビリーブ	袋井市	ハンバーガーレストランにてお客様に最高の食体験の提供とチ ームワーク	9/11-16	5	1	1
67	株式会社マジオネット マジオドライブリングス クル藤枝	藤枝市	顧客受付案内, 事務処理, 顧客獲得企画	9/2-7	6	2	2
68	松本印刷株式会社	吉田町	営業, 製作, 仕上げ加工, 総務までの幅広い研修内容	8/19-23	5	1	1
69	株式会社メカワールド	磐田市	現場体験に基づく職業観の育成と進路選択の拡張	9/3-13	9	2	0
70	やまと興業株式会社	浜松市 浜北区	商品の開発から納入まで	9/9-19	8	3	3
71	焼津図書館	焼津市	図書館関連業務の体験	9/12-19	6	1	1
72	ユニクラフトナグラ株 式会社	湖西市	ロボット組付	9/3-13	9	1	0
73	株式会社ロジック	浜松市 中区	プログラム作成, HP 更新	9/2-13	10	2	2
74	株式会社ワイケーデ ザインリンク	島田市	自動車用メータ設計業務の補助業務	9/2-13	10	1	0

実習人数が「0」となっている企業は、二次・三次募集で追加した企業のうち、実習申し込みがなかったもの

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	2年	3年	院1年	計
機械	4	25		29
電気電子	1	11		12
物質生命	2	21		23
コンピュータ	1	25		26
人間情報	1	13		14
大学院			1	1
計	9	95	1	105

表3 実習企業地域別内訳

市名	人数	市名	人数	市名	人数
浜松市	16	牧之原市	2	富士市	1
袋井市	13	沼津市	2	富士宮市	1
磐田市	7	藤枝市	2	島田市	1
静岡市	6	菊川市	1	豊川市	1
焼津市	3	森町	1	山梨市	1
掛川市	2	吉田町	1		

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会	計
機械	62	37	29	28	156
電気電子	72	18	12	13	115
物質生命	64	30	23	23	140
コンピュータ	35	29	26	26	116
人間情報	27	16	14	14	71
大学院	1	1	1	1	4
計	261	131	105	105	602

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>【機械設計・開発などの分野】 機械設計、CADによる作図、受注生産機の機構・開発設計、試作機の性能確認、自動車部品のモーター駆動化をにらんだ先行技術開発、図面検証→試作→評価、製品開発の補助作業、鍛造、金型の設計・製作現場を学ぶ、開発・設計現場において開発業務を体験、3次元CADを使ったパーツモデリング、エレベータ部品の設計、開発品の試作、製作、評価、健康関連機器の開発補助。</p> <p>【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】 機械加工実習、クラッチディスク摩擦材の抄造作業、自動車・オートバイ・農業機械の精密部品を切削加工、マシニングセンタによる製作、ワイヤ放電加工、オートバイマフラーの製造工程、塑性加工(鍛造、熱処理作業工程)、非鉄金属の各種加工、NC加工汎用機の体験、金型設計→加工→仕上げ→射出成形の体験、パイプ曲げ、ロウ付け、溶接、出荷等、NC旋盤、マシニングセンタ、ホブ盤、細穴放電加工、洗濯機の部品製造から組立作業まで。</p> <p>【検査・測定・実験などの分野】 完成品検査、画像処理装置、加工条件設定のための測定分析、試作機の性能確認、2輪車用ショックアブソーバのテスト、エレベータ関連部品の品質調査、ショックアブソーバの試作組立、ベンチテスト、自動車部品の性能試験、品質管理及び試験活動のサポート、フッ素樹脂製チューブ・ウレタン製チューブの押出し条件確立、位置決めXYテーブルの評価実験、自動車部品の振動特性測定、CAEによる振動解析、金属疲労分析、プレス製品の性能評価、実験データの測定と理論解との比較。</p> <p>【電気・電子関係の開発・実験などの分野】 工場内各種機器の電力集計及び分析、工場内照明器具、空調機器、動力機器の使用電力集計及び分析、電子制御機器の試作品実験データ収集、超音波応用機器の開発設計、</p>	<p>AutoCADによる電気回路の設計、高速精密送り装置のモーター及びドライバーの特性解析、微細認識工学系における照明の解析、電磁部品の評価検査、各種回路の計測制御、レーザー干渉計を使用した変位測定、太陽光発電システムの取付実習。</p> <p>【物質科学関係の開発・実験などの分野】 微生物応用による開発試験、汚水浄化システムの理解、水処理施設フローの習得と運転管理、電子顕微鏡取扱業務、環境計量における、試料の前処理、有機合成による香料分質の合成・精製、化粧品品質管理、FeNi合金の磁気特性調査、し尿の各処理工程のシステム管理と作業実習、銅合金の透過電顕による組織観察、緑茶カテキンの分析・整理、水質分析。</p> <p>【情報関係などの分野】 図書館業務全般、エレベータ電気手配自動化ソフト作成、物流業務と情報システムの現場実習、パソコンデータ入力、ITシステム管理、ユーザーサポート等、PC機器類の研究指導、インターネットを使った情報収集、ワード・エクセルなどの応用、市内の観光スポットの写真撮影や資料収集・ホームページの作成、3次元CADソフトと遠隔ネットワークシステムの習得、データ収集プログラムの作成、データベースソフトの作成、Linuxのリアルタイム制御、発信用ソフトのデモ用サンプル制作。</p> <p>【企業経営・管理などの分野】 接客サービス、本社として各支店との事務連絡業務、接客販売、放送・番組制作における技術部門の仕事、現場見学、実習(配管、リフォーム、不動産)、PR・広報等、社会人になるための基礎教育の体験、ベンチャー企業の経営現場、作業工程管理、新製品のマーケティング。</p> <p>【福祉活動・団体活動などの分野】 消火・救急訓練、消防機材点検等、施設内外の整備(窓拭き、草刈り、押入れ掃除等)、重度障害児(者)の介助、散歩・制作活動等の介助、市民参加の地域福祉活動。</p>
--	---

い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮し、56社(昨年度は55社)に105名(同87名)の実習生を派遣することができた。実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表1に示す。また表2および表3に、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の地域別内訳を示す。

5. 事前教育について

前述したように、4月9日から3回にわたり事前研修会を開催し、インターンシップを受けるにあたり、基礎的必要事項や心構えなどを説明した。第1回事前研修ではインターンシップへの関心が高まったためか、261名の参加が

あり、300講義室でのガイダンス開催となった。第1回事前研修の内容は、インターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え、履修等について説明を行った。また、近年採用に際して特に重視されている社会人基礎力についての考え方を紹介し、これらの力を養うためにインターンシップを役立てることができることを強調して、動機付けを行った。第2回事前研修では、先輩による体験報告、および、実習先決定報告書や履歴書等の作成についての説明を行った。第3回事前研修では、実習に向くにあたっての諸注意事項、報告書類等提出物の説明をおこなった。以上3回的事前研修によって、学生の動機を十分に高めるとともに、ビジネスマナーの重要性に

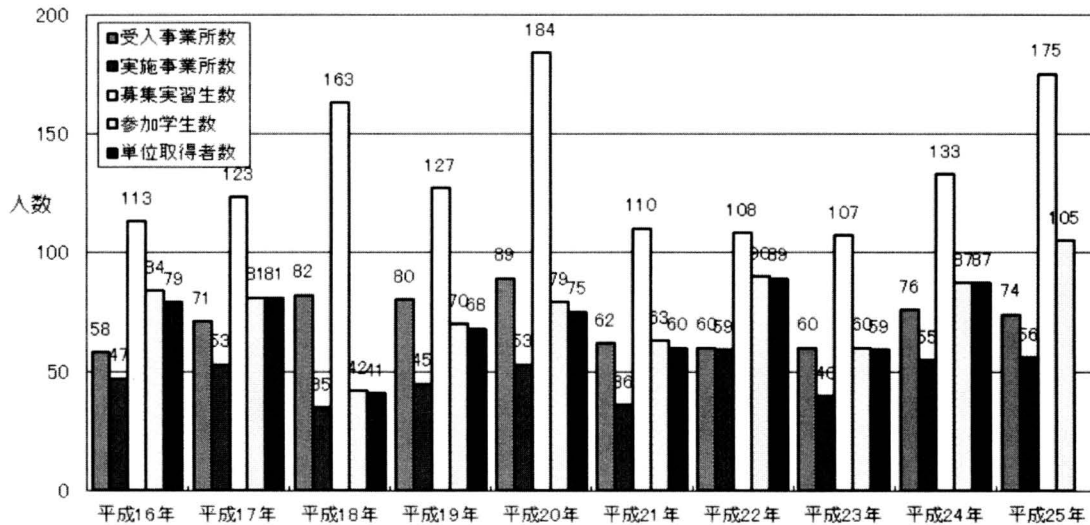


図1 受入企業等の数および参加学生数(10年間の変化)

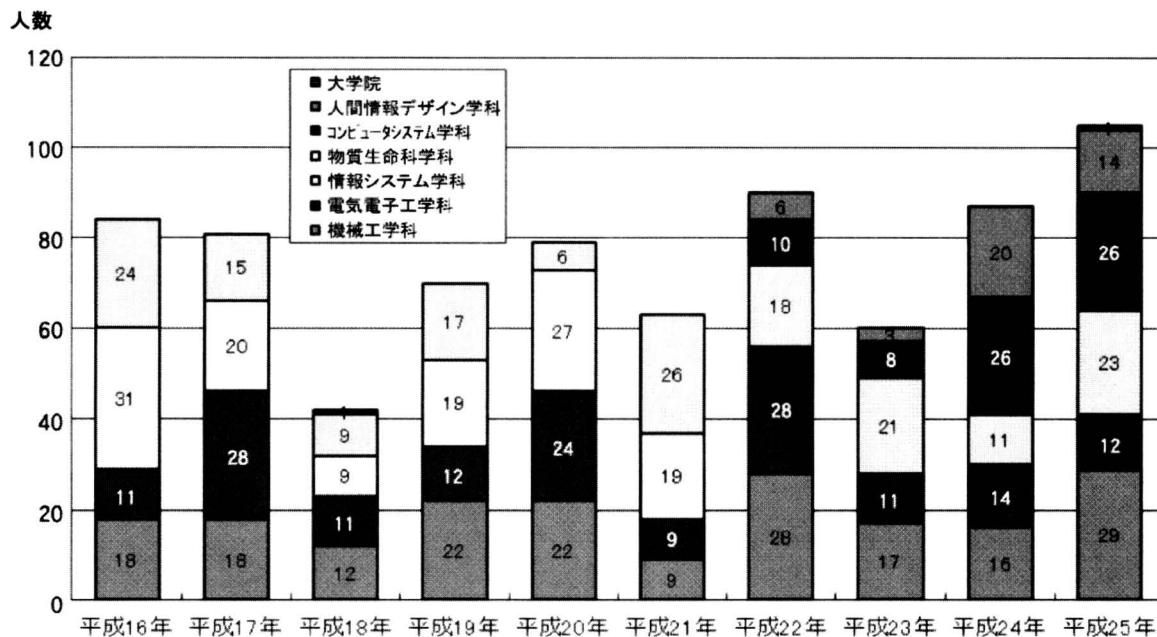


図2 参加学生数の内訳(10年間の変化)

関する理解の徹底をはかった。

近年、初年次からキャリア支援教育がカリキュラムに組み込まれ、十分なキャリア教育が行われているため、昨年同様事前研修は3回とした。事前研修に関しては3回で十分であると思われる。

このように、3回にわたる事前研修によって明確な目的意識を持った学生を実習先へ送ることができたと考えている。事前研修への参加者数を表4に示した。

各事前研修はビデオに収録し、事前研修当日に実験・実習やその他の理由により参加できなかった学生も、後日DVDを見て内容に関するレポートを提出することにより、事前研修の補講を受けることができるよう配慮した。また、このDVDは春期インターンシップの事前研修にも利用した。第1回事前研修参加者261名(昨年平成24年度は268名)の内、105名(昨年度は87名)が企業実習を行うこととなった。第1回事前研修参加者中の実習参加率は40.2%

(昨年度は32.4%)となり、参加率、参加人数(昨年度比20%増)とも昨年度までの実績を大幅に上回ることができた。

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって、まず本学と実習生受入企業との間で「覚え書き」を作成した。これは双方の義務や責任を明らかにし、万一の場合に備えるため、実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するためであり、双方が署名捺印した。

また、学生は実習に先立って、参加申込書の提出にともない助言教員の承認をうけることになっている。これは本学教員への連絡だけでなく、学生が自から参加の意思を示すことで、キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある。

インターンシップ実習は、8月3日から9月22日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ、滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中は、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、受入れ企業に担当教員が出向き、実習受入担当者と面談を行った。

過去3年間に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した。本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図1に示した。今年度は受入れ企業・実施事業所数とも昨年度と同等であったが、募集実習生数は増加した。また、参加学生数も、キャリア支援教育の成果が現れ、過去最高の105名に増加した。10年間の参加学生の累計は760名以上となった。参加学生の学科別内訳を図2に示した。本年の特徴は、機械工学科と物質生命科学科の参加人数が増加したことである。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験しなかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示す。「製作、組立、加工」が1位で26%、「営業、接客、販売」は23%で2位であった。昨年度と同様の順位であった。しかしながら、その他が34%であり、想定外のいろいろな仕事を体験できたと考えられる。これは、法多山尊永寺3名、袋井市役所3名など一般企業とは異なる所で実習したためであると思われる。多彩な仕事を通して学ぶことは多く、良い経験になったと考えられる。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」は28%、2位の「企業の現場を見ることができた」は18%でその他の項目も昨年度と同順位、同率であった。どのような職場へ行っても、学生の感じる所は等しいと思われる。しかしながら、今回は異業種が多く、成果の中身は異なるはずである。

アンケートの自由記入欄に“充実したインターンシップ”、“貴重な体験”“目標にしていたコミュニケーション力が付いた”など、感謝と成果に関する記述が多く、いろいろな意味で成果があったものと思われる。受入れ側のご努力に感謝する次第である。

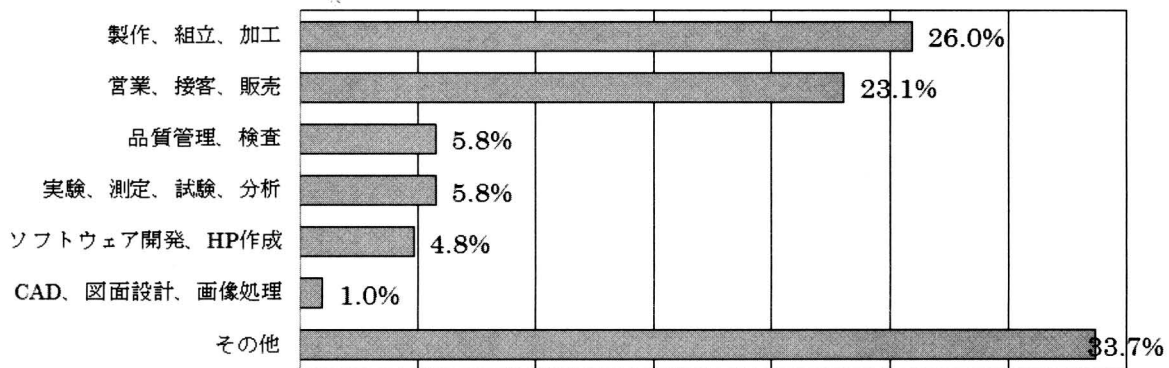


図3 実習内容の詳細

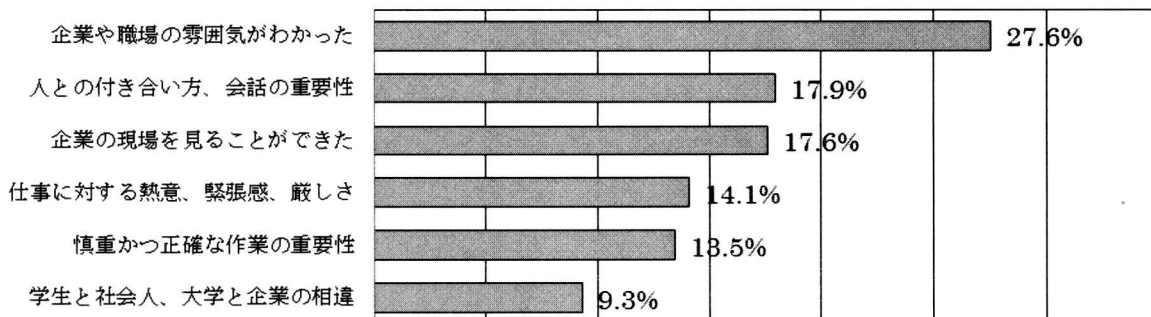


図4 実習によって得られた成果

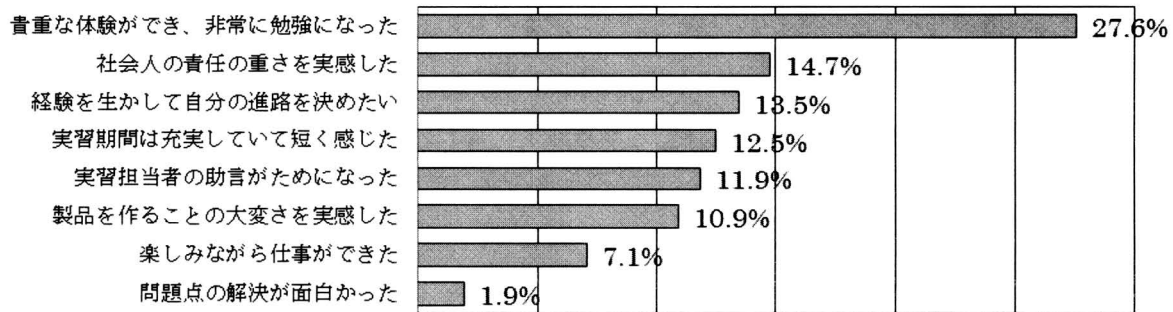


図5 実習に関する感想

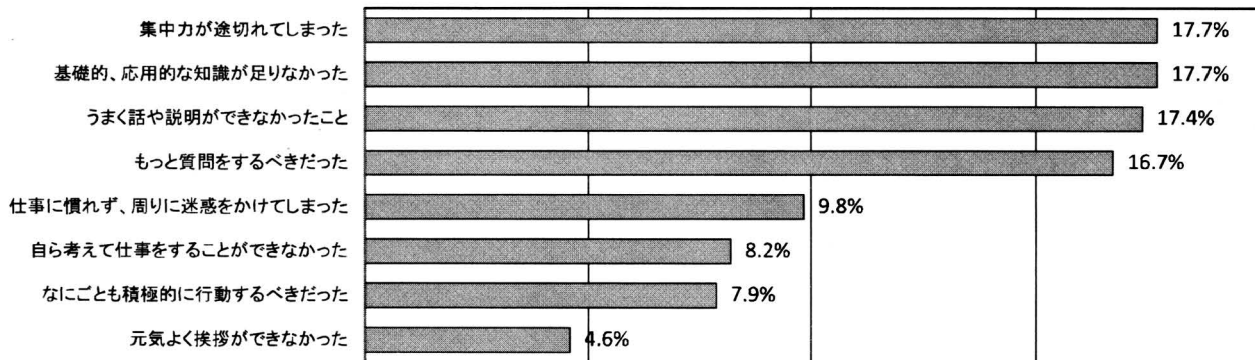


図6 実習に関する反省

表6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数 105)

評価項目	評点					平均点
	大変良い 5	やや良い 4	普通 3	やや劣る 2	劣る 1	
勤務状況(欠勤, 遅刻, 相対などの状況)はいかがでしたか?	72 68.6%	12 11.4%	19 18.1%	1 1.0%	1 1.0%	4.5
勤務態度(言葉遣い, 挨拶, 返事などは)はいかがでしたか?	50 47.6%	35 33.3%	18 17.1%	2 1.9%	0 0.0%	4.3
実習内容はよく理解できていましたか?	36 34.3%	47 44.8%	22 21.0%	0 0.0%	0 0.0%	4.1
仕事に対し, よく実行・行動・努力していましたか?	44 41.9%	40 38.1%	20 19.0%	1 1.0%	0 0.0%	4.2
仕事は正確で良い結果を出していましたか?	35 33.3%	45 42.9%	23 21.9%	2 1.9%	0 0.0%	4.1
創意工夫の姿勢は見られましたか?	26 24.8%	37 35.2%	38 36.2%	3 2.9%	1 1.0%	3.8
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	33 31.4%	43 41.0%	27 25.7%	1 1.0%	1 1.0%	4.0
責任感を持てていましたか?	38 36.2%	39 37.1%	27 25.7%	1 1.0%	0 0.0%	4.1
協調性はいかがでしたか?	39 37.1%	42 40.0%	22 21.0%	2 1.9%	0 0.0%	4.1
全体評価	46 43.8%	36 34.3%	21 20.0%	1 1.0%	1 1.0%	4.2

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」についてまとめたものが図5である。1位の「貴重な体験ができ、非常に勉強になった」は28%、2位の「社会人の責任の重さを実感した」は15%で昨年度とほぼ同順位、同率であったが、4位の「実習期間は充実していて短く感じた」が昨年度の7位から浮上し、割合も8%から13%と多くなり、さまざまな仕事から充実感を味わえたものと思われる。

一方、「問題点の解決が面白かった」は2%であり、昨年度は4%で、一昨年度はその倍であったと報告されている。これは留意すべき事項である。原因は与えられた仕事、指導方法、今年度学生の質、気質などいろいろ考えられるが、今後探る必要がある。

インターンシップは、現実の厳しさを知り、自分の進路を決めるためのトリガを与える貴重な機会を提供しており、重要な実習の一つであると思われる。今後も、多くの学生をインターンシップに参加させる方策を検討していく必要がある。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものを図6に示す。その中で1位は「集中力が途切れてしまった」18%であった。昨年度は6位12%であり、突然上位になり、さらに、2位の「基礎的、応用的な知識が足りなかった」は18%で、昨年は3位15%より上位になっている。そのままとらえれば、気力、学力が足りなかったとなるが、もう少し分析する必要があるように思われる。

アンケートの自由記入欄に“加工の経験もしたかった”浜松より西の実習先があまり多くなく、選択肢が少なかったのが少し残念”などミスマッチ、選択の自由度不足と捉えることもできる意見が見受けられた。受入れ先企業の開拓など今後改善する必要がある。しかしながら、学力低下など本質的な所に原因があることも考えられる。今後、1年時の導入教育を含め、学生を鍛える努力を怠ることなく継続して行く必要がある。

8. インターンシップ実習の評価（受入企業、訪問教員）

インターンシップ終了後、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、受入企業、参加学生および訪問教員を対象としたアンケート調査を実施した。その結果について以下に述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に依頼して、個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価は10の評価項目について5段階で評価するものとした。その結果(回答数103)を表6に示した。評価の平均値は、昨年と比べて全体的に上昇した。「勤務態度」が0.4と大きく上昇し、「創意工夫」・「積極性」・「協調性」も0.3上昇した。また、「実行・行動・努力」が0.2上昇し、「勤務状況」・「正確さ」が0.1上昇した。「内容理解」・「責任感」に関しては、昨年度と同じ値であった。その結果、「全体評価」として0.2上昇した。しかし、「勤務状況」・「創意工夫」・「積極性」で1名が「劣る」の評価を受けた。「積極性」に関しては、一昨年度にその前年より0.5上がり、昨年度に0.4と下がり、今年度再び0.3上がった。ここ数年他の項目に比べて年度による変動が大きくなっている。

昨年に比べて参加者が20%程度増加したにもかかわらず評価値が全体的に上昇したのは、昨年度の評価を踏まえ、きめ細かい事前研修がおこなわれた結果だと考えられる。

問題点は「創意工夫」の項目であり、昨年度より0.3上昇したが、まだ3.8と他の項目に比べて低いことである。

「創意工夫」の欠如を本学学生の欠点として全教職員に周知徹底し、普段の実験実習やクラブ活動の中から、観察し考えて行動する応用力を養うように指導していく必要があると考えられる。

表7には個人別の所見として述べられた主要なものを示した。「明るく元気があるか」、「協調性があるか」、「はっきりとわかるように発言できるか」等のコミュニケーションに関する基本的な振る舞いの評価は、昨年度と比較すると全体的に良くなっている。しかし、これらの点で評価が低い(真面目だがおとなしい等)学生への指導が今後の課題になるのであろうが、方法論を見出しにくい課題であると思われる。

また、「積極的に仕事に取り組んだ」、「一生懸命やっていた」等の前向きな評価の一方で、一部の学生ではあるが「毎日居眠りをしていた」、「2回は寝坊による遅刻だった」、「総合的評価としては中学生以下レベル」との厳しい指摘もあった。事前研修において、このような意欲の乏しい学生を見だし、インターンシップの意義等をより強調して行うか、意欲の改善が期待できない場合にはインターンシップを許可しないなどの対策も必要である。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示した。いずれの項目も、90%以上の回答が適切あるいはほぼ適切という結果となった。今年度は、昨年度と比べて「ほぼ適切」より「適切」の割合が増加しており、きめ細かい事前指導をおこなった結果と考えられる。

8.3 学生によるインターンシップの評価

学生達自身によるインターンシップに対する評価結果を図8に示した。指導や指導内容への満足度の高さが確認できる。卒業を1年以上あとに控え、現場に就業に出る貴重な機会に、的確な指導を受けて自らの学ぶべき、あるいは工夫すべきポイントを痛感し、その後の勉学・生活にフィードバックできるのは、他では得難い貴重な経験となっていることが見て取れる。是非この制度を継続改良発展していくことが望まれる。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

単位認定のために、インターンシップ先での本学学生の実習状況を調査して評価をする必要がある。このため本年度も各派遣先企業に担当教員が訪問し、各企業の実習担当者および実習学生本人と面談して聞き取り調査を行なった。その実習先訪問担当教員の訪問報告をもとに、学生の実習への「取り組み」をグラフにまとめたのが図9である。また、実習生の「意欲」をまとめたのが図10である。

「取り組み」「意欲」とも90%以上が肯定的な評価であり、訪問した教員が、学生は真面目に意欲的に取り組んでいるという印象を受けていた。学生の態度に問題が見られたのは1企業であった。

訪問教員による企業での実習内容が教育的であったか、実習プログラムは充実していたか、指導状況は良好かという項目に対する評価は、3質問項目とも5段階評価で5または4の好意的評価が80%以上あった。実習内容に工夫がされていることや、企業の指導者と学生の関係について概ね良い評価だった。一方で2企業では、実習学生に対して指導困難な様子が見られた。以上の結果を図11に示す。

自由記述欄の内容では、次のような肯定的な意見が見られた。

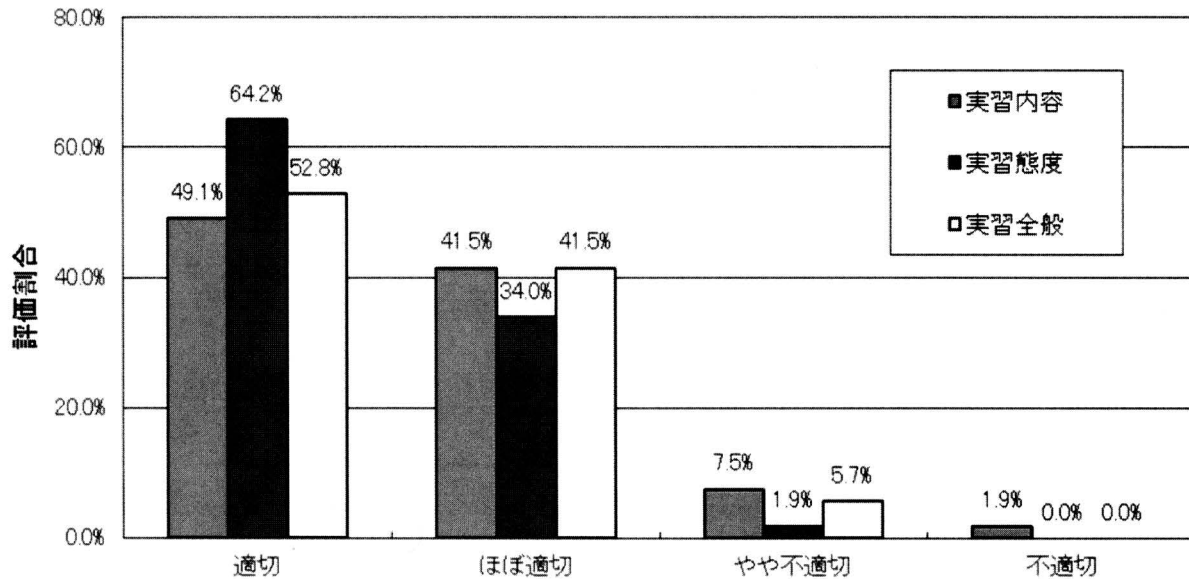


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

- 社長の教育方針が素晴らしく初日には会社の概要を会社用語で教え、その後2次下請け会社(400名規模)の製造ラインの見学をしてモノづくりに必要な加工技術金型技術を教えたようです。工場での製造歩留まりの向上や品質管理の重要性なども教えていただいている
- 棚出しや実演販売などの経験や、実際に発注は行わないが、商品の管理なども学べるプログラムになっており、学生にとって良い経験になると感じました
- この時期は繁盛期で仕事自体は沢山あるが、大型機の整備等の危険を伴う作業には従事させられないため、苦慮していたようである。そのかわり、事務作業なども実習に組み込むことで学生に様々な経験を積ませよう工夫してくれた
- 最後にプレゼンをさせるので、両学生共に、帰宅後も仕事をしているようだとの事
- 学生はこの業種について大変興味を示しており、就職先として考えているようです

しかし一部の企業には、アルバイトと同程度の仕事内容、パートタイマーの代用に見えるといった否定的な所見もあった。また、企業から訪問教員が聞いた意見として「理工科大の学生はよくやってくれる」という肯定的評価の一方、学生がおとなしい、覇気がほしいというコメントもあった。

教員からは、就職を見据えて企業と大学との信頼関係を増すために優秀な学生を送ることの必要性も指摘された。市役所などでは、各課が主にどんな仕事をするか事前に提示しておいてくれると学生が選択しやすいという意見があった。学生の更なる士気向上とともに、派遣先企業とのマッチングを高めることが来年以降の課題と言える。

9. 平成25年度インターンシップのまとめ

本年度のインターンシップの取り組みを振り返り、以下のようにまとめる。

9.1 事前研修について

先述したように今年度も事前研修は3回とした。キャリア支援教育も進んでいることから、今後も3回の事前研修で十分であると考えられた。参加者数については、昨年度から特に第1回事前研修への参加者が多くなり、本年度は261名の参加となった。特に第1回事前研修については、今後とも本年度と同様に300講義室など大きな講義室の確保が必要である。なお各学科、学部別の学生の参加率についてみると、理工学部3学科(機械、電気電子、物質生命)については、いずれも昨年度の参加者数を上回ったが、総合情報学部の2学科については昨年度の参加者数を大幅に下回ってしまった。時間割の兼ね合い(前の時間があいていたため、帰ってしまった?)などが要因と考えられるが、理由を問わずとにかく第1回事前研修には参加してもらえるように、様々な方法で学生へのアピールを強化する必要があるだろう。

9.2 実習受入れ企業数について

今年度は依頼企業の状況を分析し、受入れの可能性のある企業に絞って依頼を行った。また、卒業生の就職先の中からもインターンシップ受入れの可能性のある企業を選別し、計445社に依頼を行った。この結果、74社、175名分の実習テーマ受入申し込みがあった。

今後もインターンシップ受講者の増加が見込まれるため、学生とのミスマッチを防ぐ意味でも、より一層の実習先企業開拓が望まれる。

9.3 インターンシップ実習の評価

受入れ企業および学生自身の評価において、「積極性」、「コミュニケーション能力」などの不足が指摘されている。これらは学生個人による差が大きい、本学学生の多くの特徴とも捕らえることができる。これらの能力はインターンシップ事前研修だけで解決することは困難であり、入学時からのキャリア教育全般や、各講義での地道な指導が必要となると考えられる。大学全体としての問題ととらえ、改善に取り組む必要があるだろう。

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

＜積極的な行動が評価された＞
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の実習では、オシロスコープ等の測定器を使用した開発品の評価・データ採取をお願いしましたが、測定器等の操作や測定方法の基礎知識があり、又、仕事に対する積極性もあり、簡単な説明で業務を任せる事ができました。実習全体を通し、有望な人材であると感じました。 ・ 大変謙虚な態度で臨んでいただき、職員との協調性も大変良く、スタッフの一員として業務を遂行してくれました。ありがとうございました。 ・ 大変、熱心であり、仕事内容だけでなく、社会的な学習をする意欲が感じられました。 ・ 勤怠の関しては、きちんとしていたと思います。仕事についても、上長の支持に従ってきちんと業務を行っていました。大変真面目に取り組んでいただいで感謝しております。 ・ 慣れない業務に多少緊張や戸惑いもみられましたが、真面目に、かつ積極的に仕事に取り組んでいました。 ・ 職場体験についても、グループワークについても、明るく前向きに取り組んでいただきました。 ・ 特別な事故もなく実習に行っておりました。仕事を体験するという意味で、得られた事もあった様子でした。 ・ 特に作業処理がこちらの予想以上に早かったです。 ・ 細かな事にもメモをとり、仕事の内容も充分理解し一生懸命やっていました。 ・ 1日目よりメモを用意し、現場班長が話した内容を記録し、質問が返ってきました。私が「トヨタ生産方式」「会社の動き」「社員としての心構え」等話した時も真剣に聞きメモを取っていました。今回業務課のデータ処理を中心に作業をして頂きました。理工科の学生さんでもっと現場仕事に係わって貰っても良かったかもしれません。時間前に出社しきちんとしておりました。有難うございました。 ・ 意欲や態度は申し分なく、仕事に対しての考え方が非常にしっかりとしている事がうかがえました。 ・ パソコンスキルに問題なし。業務を的確にスピーディーにこなせた。 ・ 大変一生懸命取り組んでいただきました。同時に参加した学生が複数名いましたので、お互いに良い刺激になっていたようでした。 ・ 作業の理解も早く勤務態度も良かったと思います。 ・ 5日間と短期間ではありますが、始業時間よりもかなり早く出勤し、仕事に備える姿勢を始め、不明な点をそのままにせず聞く姿勢も見られ、担当した者も好印象を受けたようです。そのような姿勢は今後も持ち続けられる事を期待します。 ・ 指導者の話をよく聞いて、理解しようと努力しておりました。一生懸命に実習に取り組む姿勢は、指導者に良い印象を与え、お互いに楽しく仕事ができたと聞いております。 ・ 展示場メンテナンス作業を中心に行っていただきましたが、弊社の指示に対して即行動を起こし、要望以上の成果を上げていただきました。 ・ 指導者から言われたことを順守し、ミスもなく作業をしてくれました。社員とコミュニケーションも積極的にとっていました。 ・ 礼儀正しく好青年でした。短期間だったため、任せた作業内容も一部に限られましたが、前向きに取り組んでおりました。 ・ 一つ一つの作業に対し関心を持ち取り組んでいました。長い期間、力のいる実習を体験してもらいましたが頑張って達成していただきました。 ・ 朝会社に出社してから帰るまでいつも笑顔を絶やさず強調性もあり弊社担当者も楽しく一緒に仕事ことができました。 ・ 焦らず落ちついた行動が、常に出来ていました。 ・ 暑い工場名で、笑顔で元気に作業をしていました。 ・ 弊社では昼の休憩しかなく、学校での生活と比べてとても過酷だったと思いますが弱音を吐くこともなく、2週間もがんばったので、ガッツがあると思いました。また、難しい作業を任せることができなく、単純な作業ばかりをお願いしていましたがそれにも、愚痴を言うことをなく黙々と作業をこなしている姿を見てとても辛抱強いと感じました。とても忙しい時期に実習に来て頂き、非常に助かりました。ありがとうございました。 ・ 仕事面生活面双方へ真面目に取り組んでいました。 ・ 仕事に対して積極的に動き、実習中の感じたことなど実習録にもよく書かれていました。実習中のアンテナも広く張っていたので学び取れたものも多かったのではないのでしょうか。 ・ 周りに声をかけるなど、全体として効率を上げていこうという様子が見受けられました。中盤からはチームとして行動することに意識を向けることができ始めていたようです。 ・ 勤務態度等々、非常に前向きで積極的に仕事に励んでくれました。 ・ 大変元気で明るく、積極的に仕事に対して取り組みをしてくれました。今時の指示待ちが多いタイプと違い、自ら「次は何を・・・」等と積極的にしていた。本人も「人が大好き」という程なので、年配のお客様から若年層のお客様まで広く接する事が出来るキャパシティがある。非常に接客業に向けたキャラクターであり有望な人材と捉えました。今後の就職活動において、彼が自分の希望する、自分を活かせる企業に迎えられれる事を願います。その中に当社が有ればうれしい限りです。 ・ 社会性(協調性)のある方だったので、とても仕事を教えやすかったです。

- ・何事にも素直で真面目に取り組む姿勢が見られた。地道な作業にもきちんと取り組んでいた。言われたことを復唱して確認していたため意思疎通がスムーズにできた。
- ・単調な作業であっても厭わず、慎重にこなしてくれました。
- ・簡単な作業も手を抜かず、最後までやり遂げてくれました。
- ・得意なことはもちろん、そうでない業務についてもよく努力をした。
- ・デスクワークよりも外でのイベントや施設での受付業務の方が、活気がありました。一生懸命仕事をしていただき大変助かりました。ありがとうございました。
- ・特に利用者様とのコミュニケーションにおいては、とても努力されている姿勢が見られました。
- ・とにかくまじめでした。配属後しばらくは測定の間も直立姿勢で待っている状態だったので、実習の合間に読んでもらうように参考テキストを渡しましたが、すぐに読み終わりました。あまりにもスムーズに課題が終了していくため追加の課題を与えなければいけない状態でした。
- ・不慣れで苦労した点もあったようですが、諦めずに果たしてくれました。
- ・自分の意見を持ち、自分の言葉で話そうとする姿勢が伺えました。
- ・インターンシップの目的が理解できていた。
- ・男性の社員に混じりながらも、積極的に仕事を遂行しており、頼もしく感じました。皆との協調性もあり、優秀な社員になれると思います。
- ・まじめに一生懸命やっておりました。
- ・ガイダンスの時と実際の現場へ入った時では、顔が違い真剣さが伝わってきました。とても良い印象でした。
- ・積極的に手伝って頂きました。仕事への姿勢として大変良いと思いました。
- ・周りの輪へ溶け込むことを懸念していた様子でしたが、しっかりと仲間と協調が取れていたように思います。仕事にもしっかりと取り組めていました。
- ・自分の進路を真剣に考えており、元気が良く・協調性も有り、とても好印象を受けました。
- ・業務内容の把握はとても速く、その業務内容も正確にできていました。

<問題点の指摘があった>

- ・入社して20分くらいで毎日居眠りをしておりお客様と社員へのイメージが悪く評価を下げる事になりましたが、頼んだ仕事はきちんとできました。
- ・緊張し、知らない人ばかりの人に慣れていなかったのか、もう少し元気があれば本人にとっても楽しく出来たのかと思います。
- ・体力がなくライン作業に支障あり意欲は感じられたが、総合的評価としては中学生以下レベル。
- ・リーダーに任命されましたが、リーダーシップをとる機会を活かしきれていない様子は見受けられました。
- ・会話時に声が小さくて、はっきり聞き取れない時があった。
- ・3回の遅刻の内、1回はオートバイの故障だったが、後の2回は寝坊だったようだ。
- ・半田付け作業が思うようにできなかった。
- ・勤務態度については問題ありませんでした。作業の中で自分なりに創意工夫があると尚良かったです。
- ・はじめは、緊張感からかあまり話をしなかったが、日を重ねるごとに笑顔もみられるようになり、会話をするようになった。もう少し、明るさがあればもっと良いと感じました。
- ・自己判断せず、随時確認してから仕事を進めると尚良い。雑さが見られたが、責任を持って修正し終えた。
- ・ビジネスマナーや笑顔は第一印象に影響しますので、しっかり抑えて頂ければ、今まで以上に良さが出てくると感じました。
- ・日頃の仕事に対してもう少し、元気にやっていただけると良いと思います。

9.4 春期インターンシップについて

昨年度に引き続き、2014年春も試行として春期インターンシップを行う計画である。2014年春はアンケートで受入れ可能と回答のあった企業22社に加えて、夏季インターンシップ実施時に春季も受入れを検討下さる意向を表明されていた企業15社（昨年は10社）に受入れ依頼状を送付し、そのうち昨年と同数の22社からの受入れ申し込みがあった。学生募集については2年生、3年生を中心に募集を行い、第1回事前説明会には19名（昨年は53名）の参加があったが、最終的に実習を行う予定の学生は5名のみ（昨年度は4名）となった。事前説明会の参加者が減った理由は3年生については、すでに夏季において参加した学生が多くなったことが主な原因と考えられるが、2年生

については今後、アピール方法などの改善が必要かもしれない。実際の参加者が減ってしまった理由について、学生に聴取したところ、夏期インターンシップほどの受入れ企業数が確保できなかった点、学生の希望および実習場所への通勤の可否から実習可能となる企業が限られる点、3年生の実際の就職活動と時期が重なる点、などの理由から実習参加を見合わせた学生が多かった。幸い、春期インターンシップについての受入れ企業サイドのご理解は徐々に得られてきており、来年度以降も、昨年度と本年度の結果を踏まえ、実施方法等を再考しながら春期インターンシップのあり方について検討を行っていきたい。また十分な数の受入企業を確保できるよう、関係各位のご理解をお願いしたい。

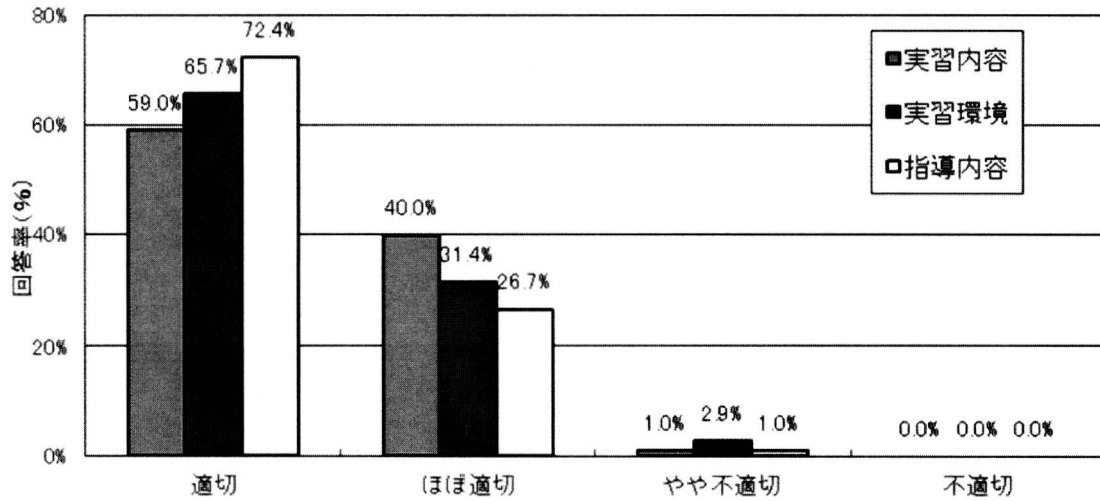


図8 参加学生による実習内容，環境，指導内容への満足度

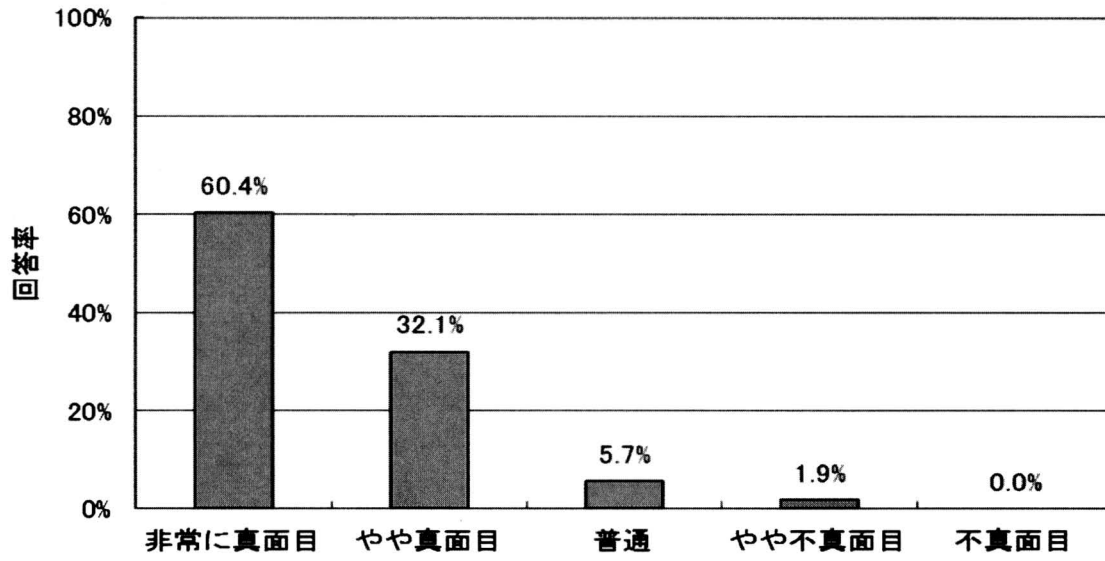


図9 実習学生の取り組みに対する訪問教員の評価

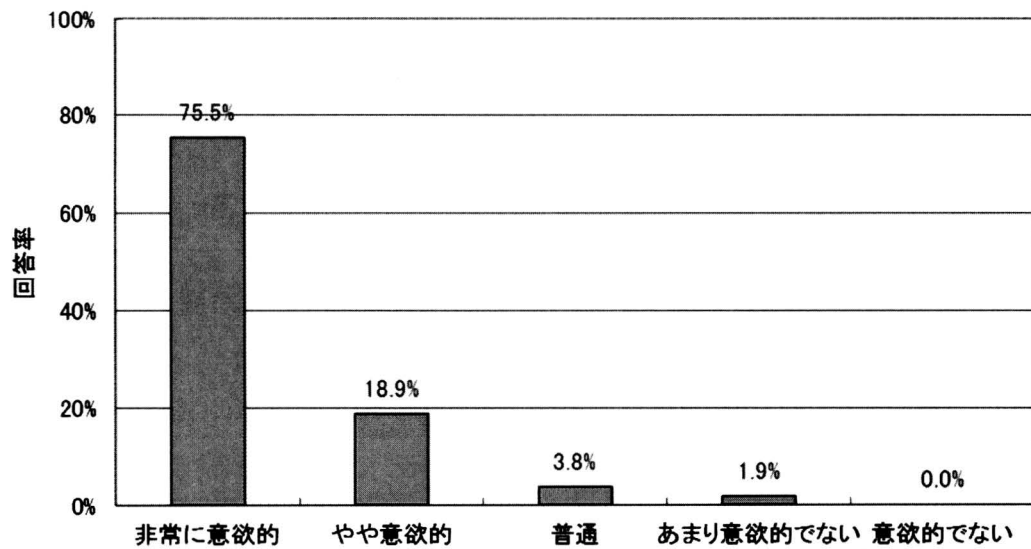


図10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

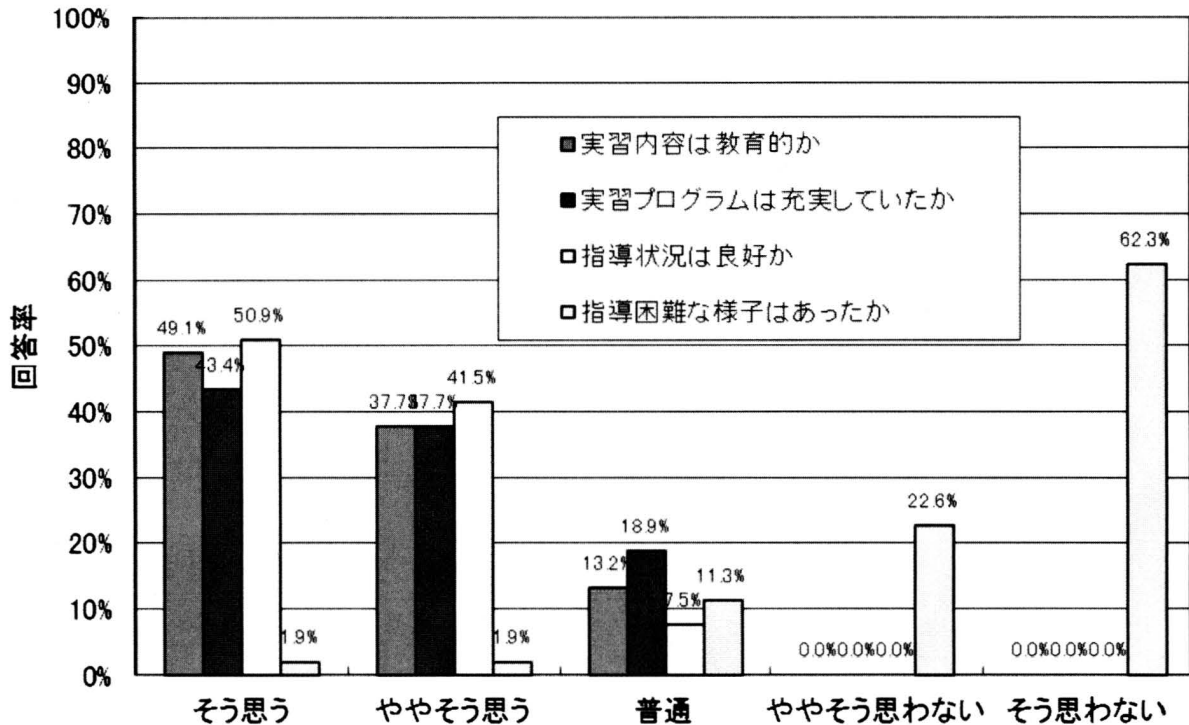


図 11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

9.5 その他

2年前までは、インターンシップ報告会については12月に開催してきたが、実習終了からの期間が開きすぎているという意見が寄せられたため、昨年度は11月に、本年度はさらに前倒しにして10月22日に開催した。報告会はできるだけ学生および企業担当者双方の印象に残っている間に開催することが望まれるので、その点では10月の開催は適切であったと言える。しかし、プレゼンテーションで報告を行う学生の指導を依頼した助言教員の一部からは、この時期の開催では、準備期間が少なすぎるという意見もあった。このため、来年度の報告会については10月下旬から11月中旬の間に開催することが望ましいと考えられる。

なお過去の実施例においては、少数ながら、本学へ企業サイドからのクレームが寄せられている。大まかに分類すると受入れ学生とのマッチングの問題、マナーや態度など学生の資質や態度の問題、挨拶に訪問する教員の対応の問題などであった。今年度は、事前研修でも学生にその点を徹底するとともに、教員各位に依頼する際にも、念のため丁寧な対応について、ご配慮いただくよう改めて依頼した。その結果、本年度は企業からのクレーム数はゼロであった。しかし、企業アンケートの結果をみると、学生のマナーややる気の問題を指摘する声は依然として寄せられており、なかには、少数ではあるものの実習中の居眠りの指摘など、実質的にはクレームと同等の深刻さを以て受け止めざるを得ない指摘も見受けられた。今後も事前研修や日常の教育の機会を活用して、一人の学生の態度が、本学全体の評価を下げることも、また向上させることもあるという点について、しっかりと指導していくことが大切である。また本年度は、幸い実習中の事故や怪我の報告は一件もなかったが、過去においては、深刻な事例ではないとはいえ、慣れない環境において、学生が事故を起したこともあった。来年度以降も、事前研修等を通じ、事故発生防止の指導を徹底していく必要があるだろう。

10. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業および事業所の皆さま、報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
- 6) 惣田晃夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.
- 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127-139.
- 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117-129.
- 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163-174.
- 10) 山莊司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施

報告－参加学生の増加を目指して－, 静岡理工科大学紀要, 第 18 卷, 2010, 145－155.

- 11) 山庄司志朗 他, 平成 22 年度インターンシップ実施報告－参加学生の増加を目指して－, 静岡理工科大学紀要, 第 20 卷, 2012, 119－131.
- 12) 石田隆弘 他, 平成 23 年度インターンシップ実施報告－参加学生の増加を目指して－, 静岡理工科大学紀要, 第 20 卷, 2012, 107－118.
- 13) 石田隆弘 他, 平成 24 年度インターンシップ実施報告－貫したキャリア教育を目指して－, 静岡理工科大学紀要, 第 21 卷, 2013, 153－166.